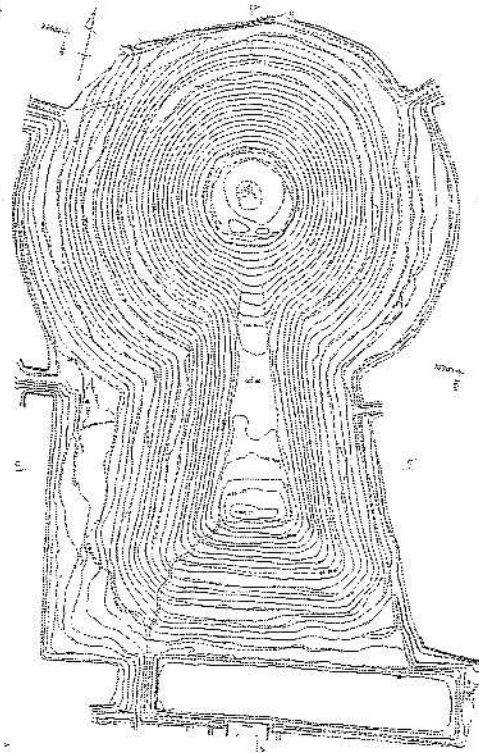


五社神古墳（神功皇后陵古墳）

全長 267m・後円部直径 190m・前方部幅 150mの前方後円墳。主軸は南北方向で、前方部を南へ向ける。後円部3段・前方部4段の築成で、前方部西側のくびれ部寄りに造り出しを有する。墳丘には葺石と埴輪列が認められる。墳丘の周囲に現在めぐる鍵形周濠と外堤は後世に付加されたもので、本来はなかった可能性が高い。また、墳丘の北東方向にある3基の小型古墳も陪塚でない可能性がある。

後円部の埋葬施設は、盗掘記録からみて長持形石棺であったと推測できる。

出土埴輪の特徴や造り出しから採集された笱形土器の存在からみて、4世紀末葉頃の築造と推定できる。



五社神古墳

佐紀高塚古墳（称徳陵古墳）

全長 127m・後円部直径 84m・前方部幅 70mの前方後円墳。主軸は東西方向で、前方部を西へ向ける。佐紀石塚山古墳のすぐ南側に位置する。これまでに調査が行われたこともなく、墳丘構造の詳細は不明である。墳丘周囲をめぐる周濠も幕末の修陵時に付加された可能性が高い。佐紀陵山古墳・佐紀石塚山古墳に比べて無理な立地場所にあるので、両古墳よりも遅れて築造されたと思われる。築造時期は5世紀初頭頃であろうか。

なお、西大寺旧境内の西北方向に称徳陵兆域が設定されているので、佐紀石塚山古墳を称徳陵に比定するのは明らかに誤りである。